B 46

女子学生の通学服のイメージと類型

大阪大工　○　家本　修
梅花短大　　川端　澄子

目的：前報では、女子学生の通学服のイメージと成績や出身高校を説明する要因について報告した。本報では、女子学生の通学服のイメージ構造や生活行動から女子学生の類型化を行い、成績（順位群別）や調査項目から各類型の特徴や要因を見い出すことを目的に、女子学生の被服行動の在り方を探り、今後の被服教育への示唆を得ることを目標とする。
方法：調査項目は、通学服の嗜好性、通学服のイメージ、通学服に対する態度、ファッションの採用時期、小遣いの額である。イメージは、通学服のイメージを形容詞１９対をもとにＳＤ法で評定後因子分析を行い、その因子スコアを用いた。これらの項目をもとにクラスター分析を行い、クラスターの特徴や関連要因を明かにする。調査年月日は、昭和60年１月。被験者は、女子短大生１７５名で分析対象者は、内完全回答者１６６名である。
結果：各項目からクラスター分析を行い、６つのクラスターを得た。第一クラスターは、「流行を重視するおしゃれ指向派」で、小遣いが最も高く学業成績は中から下位である。（構成比：17.14%）；第２のクラスターは「服装には、感心があるが通学服堅実派」で、小遣いの額は４位、成績は最上位（13.14%）；第３のクラスターは、「流行には批判的で実用指向派」で小遣いの額は最下位で、学業成績は第２位（18.86%）；第４のクラスターは、「おしゃれもして見たいが、やや控えめな中庸派」で、小遣いも学業成績も第３位。（23.43%）；第５のクラスターは、「おしゃれに手が出しににくい消極派」で、小遣いが第５位、学業成績が第４位（15.43%）；第６のクラスターは、「流行をあまり重視しない個性派」で、小遣いは第２位であるが、学業成績は最下位（12.00%）：（各々・$p<0.01$）